



ー第5回ー



「Piece of Kenya」代表  
**石沼 一紀さん**

今回は、JICA(独立行政法人国際協力機構)の青年海外協力隊員としてケニアで活動後、帰国隊員たちと一緒に「Piece of Kenya(ピース・オブ・ケニア)」を立ち上げ、ケニアの雑貨の輸入・販売を通じて現地の団体をサポートしている、  
さいたま市在住の石沼 一紀さんにインタビューしました。

### ー 青年海外協力隊に参加したきっかけは何ですか？

もともとは自動車整備工場で働いていたのですが、5年ほど経つと技術の向上にも限りがあると感じるようになりました。入社当時から20年後、30年後の自分のビジョンがあり、英会話を習ったり、時間を見つけては海外各地を回ったりして、自分が何をすべきかをずっと考えていました。そんな中、専門学校時代の先生が協力隊として赴任していたフィジーに行く機会があり、彼の活動を見て「これだ！」と思ったのです。

でも、初めての協力隊の応募は不合格。語学を磨くため、オーストラリアに留学し、帰国後再び挑戦しました。これでだめならあきらめようと思っていたところ、合格しました。

### ー ケニアでの活動はスムーズでしたか？

赴任した最初の半年は大変でした。私はケニア第3の都市、ナカルの国立公園にある「ケニア野生動物公社」(KWS)に配属され、KWS所有の車両の整備や板金塗装技術をスタッフに伝える仕事だったのですが、教えてくても工具や部品がない。

仕事場もトタン屋根だったため、改善してもらおうと何度もKWSの幹部に手紙を書きましたが、なかなか聞いてもらえず、途方に暮れていきました。

そんな中、乗っていた小型バスで事故に遭いました。周りには家や店もなく、すぐに救急車が来るわけでもないので、自力で脱出し、傷だらけの体でヒッチハイクをして首都に戻りました。後で聞いた話ですが、事故に遭ったことを知ったKWSの幹部が「あいつをなんとか助けてやれ」と奔走してくれたそうです。それを聞いて“この人たちのためにがんばろう”と心を切り替えました。

ある日、ボロボロのバイクを塗装していると、同僚たちが興味を持ち、それをきっかけに少しづつ工具を買い揃え、技術を伝える土台ができました。道具が揃え始めると同僚たちは技術が低いのではなく、道具がないから仕事ができなかつたのだ気づきました。

任期も残すところあと半年となり、ケニアでの活動が軌道に乗り始めた頃、大統領選挙による部族同士の争いが激化したため、私たち隊員は首都ナイロビでの待機を命じられ予定していた講習会も実現できないまま、ナカルに戻らず帰国することになりました。



▲KWSの同僚たちと(後列左端が石沼さん)

“自分が何かを変えてやろうなんてそんな大きな事はできない。失うときは一瞬だ。”

この時、変わらない日常をキープすることの難しさを感じました。

### ー どのような経緯で「Piece of Kenya」を立ち上げることになったのでしょうか？

帰国後、自分がケニアでやってきた2年間を無駄にしたくないという気持ちから、“モノがなければ送ってあげればいいのでは”と、知り合いのケニア人と組んで工具の取引を始めました。

その後自費でケニアに渡り、一人で民間の工場や問屋を回り、日本の工具を売り込みましたが、なかなか相手にされません。

そんな中、仕事のパートナーが「中古パソコンなら需要がある」と提案してくれました。古物商の免許を取り、日本で中古パソコンの買い付けを始めました。

同じ頃、ケニアで活動中の協力隊の後輩が「雑貨を日本で販売できないか？」と言ってきました。各県や市で行われる国際フェアに出展販売したところ、現地から「モチベーションが上がるし、うれしい」という返事が来ました。

それがきっかけで「Piece of Kenya」という屋号を決め、個人で雑貨の輸入を始めました。



▲「国際フェア2012」で、ケニアの民芸品を販売

### ー 今後、どのような活動をされるご予定ですか？

これまでの活動を通じて人材を育成する大切さを感じています。今後、ケニア人の民間会社の経営者とともに専門学校を立ち上げる予定です。

「Piece of Kenya」は継続していくことが最終目的です。こだわらず、フレキシブルに対応しながら、帰国隊員を中心としたメンバーとともに社会貢献をしていきたいと思っています。

### ー これから世界に出て行こうと思っている若い人たちに對して何かメッセージをいただけますか？

機会があればぜひ海外に出て行ってほしい。視野が広がるし、自信もつきます。

また、何事も自分が思うように進まないことにも気がつきます。でも、ダメだったら、次はこれをやろう！とポジティブに考えればいいのです。

出会った人やこれから出会うとの信頼関係を大切に、目的意識をしっかりと持って行動してください。そして、自分の決めたハードルを確実にクリアすることが大切です。結果をあせらずプロセス重視の考え方で今をがんばってほしいと思います。

☆ピース・オブ・ケニアのホームページ  
→ <http://www.pieceofkenya.com/>